



J R 浦和電車区事件

弾圧から9年！

弁論開廷・無罪を！



11・1 大集会

えん罪 J R 浦和電車区事件発生から9年目にあたる11月1日、支援する会と J R 東労組は「弾圧から9年 最高裁に口頭弁論を開かせ、美世志会の逆転無罪を実現する 11・1 大集会」を東京・滝野川会館大ホールで開催した。



米同時多発テロから1年後の2002年11月1日、公安警察は J R 総連・ J R 東労組破壊の大弾圧へと蠢いた。権力は組織内に攻撃に同調する

組織破壊者を周到に準備し、外から直接弾圧を加えることで、私たちの平和を求める声を掻き消し、闘う労働運動を潰そうという国策発動の暴挙に出た。そのひとつがえん罪 J R 浦和電車区事件のでっち上げだ。

美世志会の裁判では、検察と司法はことごとく事実認定を覆し、恣意的に「有罪」に持ち込んだ。また会社は1審の判決と同時に6名の解雇を通告した。

集会ではまず、こうした「事件」の発生と背景、反弾圧の闘いを映像上映で振り返った。

J R 東労組・千葉委員長は、悪辣な「革マルキャンペーン」や権力の狙いに同調する J R 連合の動きなどからの攻撃を打ち砕いてきた9年だったとふり取り、「 Y 原告」の復職すら許した会社を許さず、186 回の最高裁要請行動をはじめ、培った組織力で検察や検察一体の世の中の不正に「No！」を突きつけ、団結権と憲法を否定する暴挙を許さず、最後まで闘うと挨拶。支援する会の飯沼代表は「強要」の事実もなく、『強要罪』にも当てはまらない」と改めて訴えた。

集会には、再審無罪を勝ちとった「布川事件」杉山卓男氏、えん罪と闘っている「東電OL殺人事件」の無実のゴビンダさんを支える会・客野美喜子氏、三鷹

事件の再審を進める大石進氏、 J R 総連・武井委員長があいさつ、袴田事件の再審を求める門間副代表らも集会に参加した。



また、新党大地代表代行の浅野貴博衆議院議員からの講演では、「取調べの全過程の可視化」と「全面可視化」とを区別し、司法改革も含めた実現とえん罪の撲滅への決意が語られた。会場からは代用監獄の問題について質問が行われた。

弁護団の中村事務局長は、判決では共謀の事実認定がないことや強要を立証する害悪の告知事実が曖昧なこと、何一つ具体的な証言ができない「(偽)被害者 Y」、現場長に強要認識がない点などを改めて指摘。最高裁の事実認定が問われるが、我々は判例に捉われず無実を勝ちとろうと訴えた。

美世志会7名からは、それぞれから9年間の闘いの想いが語られた。

閉会にあたって、支援する会の船田事務局長から、鶴彬の句「枯れ芝よ！ 団結をして春を待つ」が紹介され、最後まで闘い抜こうという集会アピールが採択された。

浦電事件は国策弾圧との闘いだ。 J R 総連はいかなる弾圧も跳ね返し、えん罪と闘い、労働者の権利を守っていく。